

## なんだ・かんだ

### ◆ ミッドライフ・クライシス (中年の危機) ◆

心理学者のユングは、人にはミッドライフ(中年期)に大切な人生の転換期があると説いています。特に32歳から38歳の間に、内なる大きな変化・変質が必ず起こるとし、「人生の転換期」だと言っています。現代社会ではこの年齢は40歳前後に当たるとも言われ、また、もっと高齢になっても訪れるとも言われています。子供から大人になる時期に思春期があるように、人生の後半に第2の思春期であるミッドライフクライシス(中年の危機)があるというのです。

「中年の危機」は誰にでも訪れる可能性があります。一般的には、「毎日がパツとしない」といった程度の悩みが多いそうです。

しかし、40、50代になると生活環境が変化したり、身体的にも衰えだし、精神的にも若い頃とは変わってくる中、人生に限りがあることを意識して今までの生き方に関心を失い始めたり、突然原因不明の身体的症状に悩まされたりします。

「この先、残された時間をいかに有意義に過ごしていくか」という、「残りの時間」に対する感情が心の葛藤・焦り・不安を呼び、ある日突然妻子を残して家出してしまう様な事を起こしたりします。心の苦しみから解放されずに、そのプレッシャーから逃げる為に、常識的には考えられない行動を突然取ったりすることがあります。

家出だけでなく、会社を突然辞めてしまう、浮気をする、衝動的に高価な買い物をつつもするなど、症状は様々ですが一つの行動に限らず、ごく短期間にいくつもの大きな行動を取ってしまうこともこの中年の危機の特徴です。

その間、当人は他人の言うことも聞かずに、気のむくまま行動し続けてしまい、場合によっては精神科医の治療が必要となる場合もあります。この様な非常に深刻なミッドライフ・クライシスが起ることは稀ですが、よく聞く話でもあります。

この危機を乗り越えるためには、「いかに自分を再定義していくか」が大きな課題になります。「これから自分はどう生きるべきか」、自分自身の生き方を改めて考え直すということです。「今後どう生きるべきか」例えば、スポーツにおける地域の子供の指導員の様に、自分がそれまでの人生で身につけたことを次の世代に伝えていくということであったり、周囲の人や社会に役に立っている、という意識が重要になることもあります。特に仕事一途で脇目も振らずに突き進んできた我々の様な人間は、将来の自分の生き方を考えなければなりません。

そして、このミッドナイトクライシスを乗り越えたところに新しい可能性や創造性への飛躍があります。過去に歴史に残る様な創造的な仕事を成し遂げた人で、中年以降この様な危機を乗り越えて、偉業を成し遂げた方は多くいるそうです。したがって「中年の危機」は意味のある症状であるといえ、思春期の様に必要なものなのでしょう。

最近私たち夫婦の合い言葉は、「人生1度きり、やれることは全部やろう。色々なモノを見て、触って、感じて、経験しよう。旅行へ行き、美味しいものを食べ、美術館へ行き、色々な人と会って話をして充実した人生を送ろう。」しかし、この実行はなかなか難しく、常に妻が先行しています。



### ■ 夏期休暇 (お盆休み) ■

当社の今年の夏期休暇は、コア休暇(会社全体が休み)として、8月11日(金)から8月15日(火)まで5日間。前後の10日と16日は、会社は開いていますが、社員が交代で休みを取ります。

各メーカー様は8月5日から20日の間にお休みを取られる様です。お客様の生産に支障を来さぬように対応していくつもりですが、特に直接生産に関わる製品につきましては、メーカー休暇中の製品供給につきまして、弊社担当にご相談頂きます様お願い申し上げます。

ご迷惑をお掛けいたしますが、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

### 景気判断は 回復を続けている

7月に入り本当に暑い日が続きます。初旬には九州地方が記録的豪雨に見舞われ甚大な被害が出ています。これから台風シーズンが始まりますが、この様な被害が出ない様に祈るばかりです。

さて、日銀の静岡支店はこの7月の景気判断を「穏やかな回復を続けている」から「回復を続けている」という表現に引き上げました。引き上げたのは2ヶ月連続です。これは輸出が着実に増え、内需も底堅い動きを見せ、企業の生産が持ち直しの動きを強めている状況を踏まえての判断だと言っています。アベノミクスが始まって以来大きな崩れはなく、我々の実生活の中で実感はありませんが、恐らく平行に近いけれども多少右肩上がりで、穏やかに回復をしている状況なのでしょう。

しかし、景気には必ず波があります。悪くなった時に慌てることのない様に、良い時にその準備をしなければなりません。とかく人間は悪くなるのが分かっていても、その時にならないと行動しません。夏休みの宿題が良い例で土壇場にならないとやらないのです。しかもその準備は今日やれば直ぐ出来るモノではありません。計画的で継続的な行動が必要です。

代表取締役 服部 一郎

### 社員ブログ

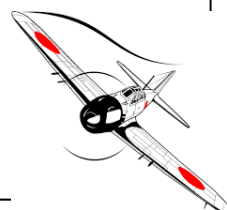
● 小説太平洋戦争 ● 営業部 影山裕久  
昭和46年に刊行された山岡荘八氏の「小説太平洋戦争」が最近新装された物を読んでいます。

日本が太平洋戦争を何故開戦してしまったのか、南西太平洋で如何にして玉砕したのか、世界一の規模と装備を持った戦艦大和が如何にして撃沈したのか、そして特攻について等。当時従軍記者として各地で実際に見てきたこと、後に判明したこと等が書かれています。

フィリピン・サイパン等南方の戦場で、日本兵は、食料も弾薬も尽きてジャングルに潜んでゲリラ活動をするなか、アメリカ軍は日本軍の数十倍の人員と兵器を要し、日本兵の潜んでいそうな塹壕を火炎放射器で焼き払いながら進軍していきます。

しかし午後5時になるとどんな状況にあらうと、進軍をやめてキャンプに引き返す。同じようなことが山崎豊子氏の「二つの祖国」にも書かれていますが、日本兵は5時になると今日も生きていたと安堵したようです。

戦争を、仕事のように計画し実行していたアメリカと総玉砕を考えた日本との違いは何だったのか「・・・どんなことをしても生き残って・・・」というのは当時の軍隊内の常識ではなかったようで、そんな時代があったことを再認識させられます。



本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思ひます。次回からの発送を中止させていただきます。

株式会社チキリ  
静岡県駿東郡清水町卸団地73  
Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534  
E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/